

東京都HIV/エイズ発生動向、検査・相談実績及びCD4値(2024速報)

図-1 HIV感染者及びエイズ患者報告数 年次推移 (2015-2024)

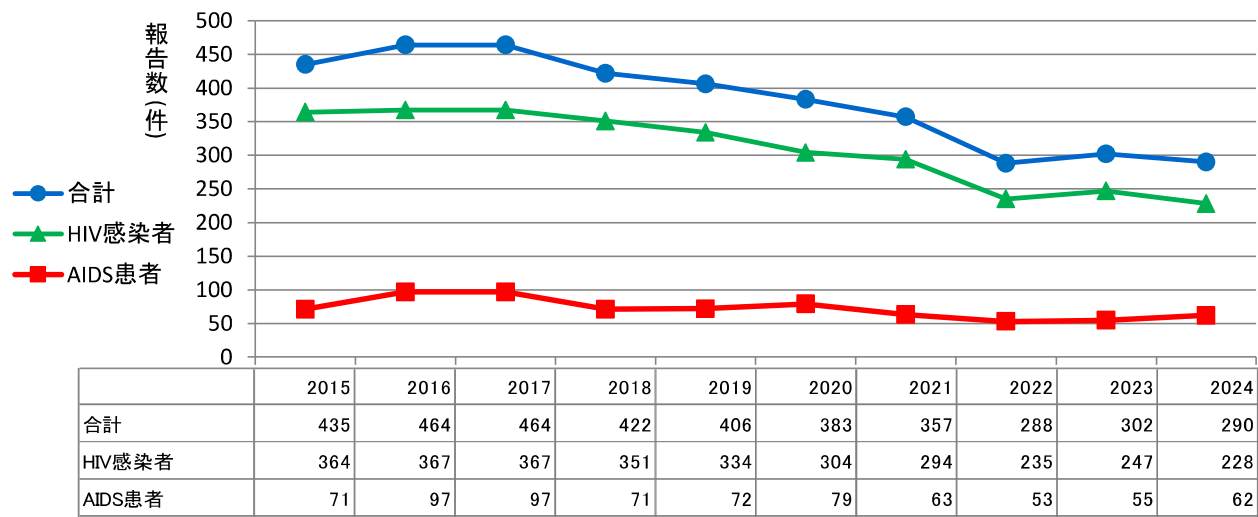
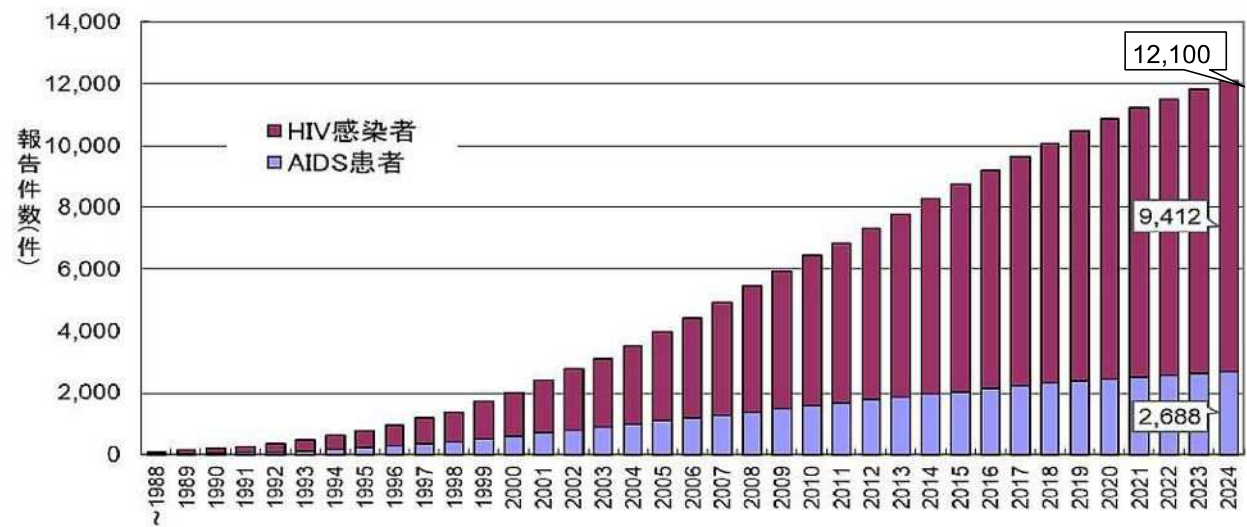


図-2 東京都のHIV感染者及びエイズ患者の各年末までの累積報告数



(注1) 凝固因子製剤によるものは除かれている。
(注2) 法施行(1989年2月17日)後は、東京都に居住を有する者の報告数である。
(1988年までと1989年の4件の計76件は、法施行前の都内の医療機関からの報告である)

図-3 HIV/エイズ国籍、性別報告数 年次推移（2015-2024）

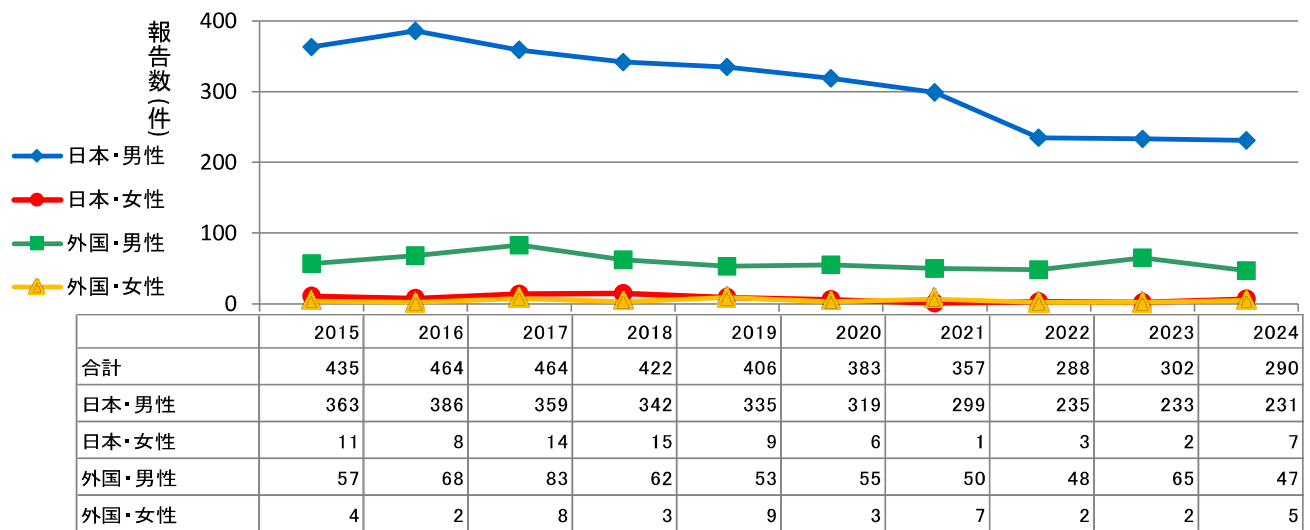
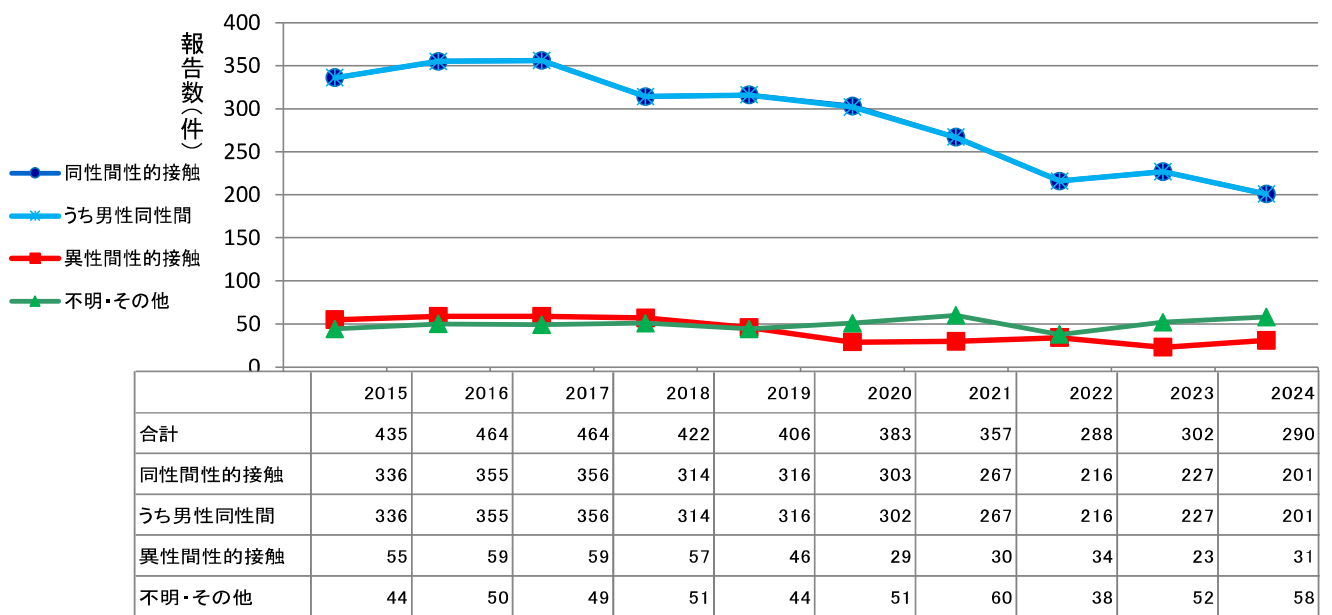


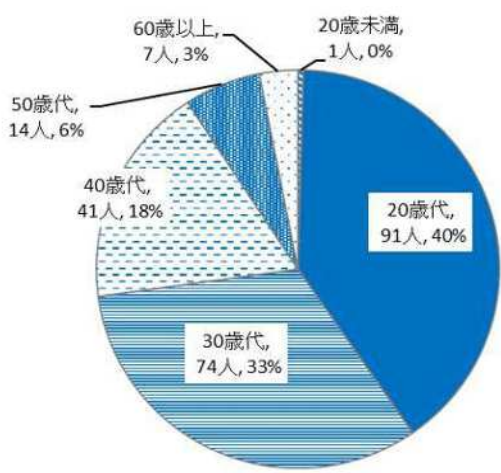
図-4 HIV/エイズ推定感染経路別報告数 年次推移（2015-2024）



(注)同性間性的接触は両性間性的接触を含む

図-5 HIV感染者及びエイズ患者の年齢別割合（2024）

(1) HIV感染者



(2) AIDS患者

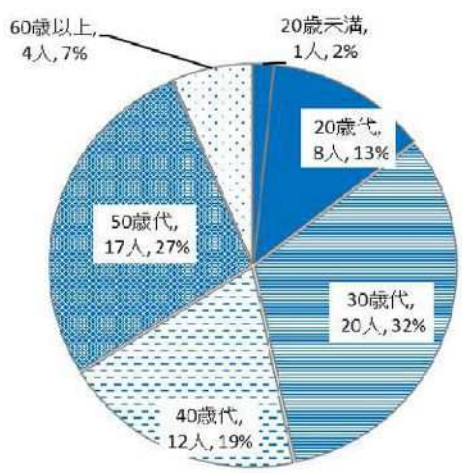
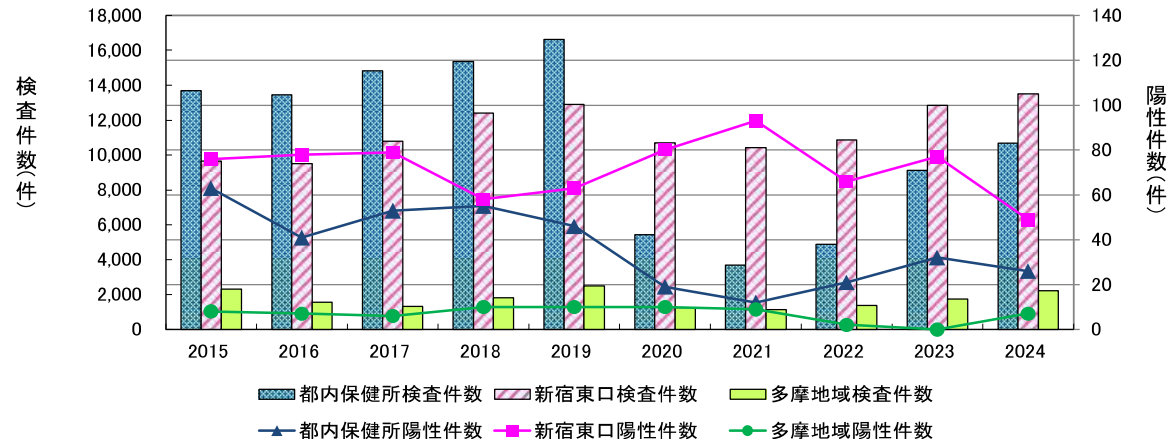


図-6 HIV検査件数及び陽性件数の年次推移（2015-2024）



		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
検査件数	都内保健所	13,694	13,446	14,814	15,358	16,621	5,430	3,689	4,877	9,110	10,669
	新宿東口	9,662	9,501	10,785	12,408	12,897	10,691	10,427	10,870	12,846	13,501
	多摩地域	2,328	1,561	1,321	1,810	2,498	1,249	1,143	1,364	1,737	2,207
検査件数合計		25,684	24,508	26,920	29,576	32,016	17,370	15,259	17,111	23,693	26,377
陽性件数	都内保健所	63	41	53	55	46	19	12	21	32	26
	新宿東口	76	78	79	58	63	80	93	66	77	49
	多摩地域	8	7	6	10	10	10	9	2	0	7
陽性件数合計		147	126	138	123	119	109	114	89	109	82

(注1) 多摩地域検査・相談室は、2023年8月から土曜日に加え日曜日も実施している。

(注2) 新宿東口検査・相談室は、2024年3月21日から4月3日まで休止し、4月4日から開室時間を30分延長している。

図-7 検査陽性率の年次推移（2015-2024）

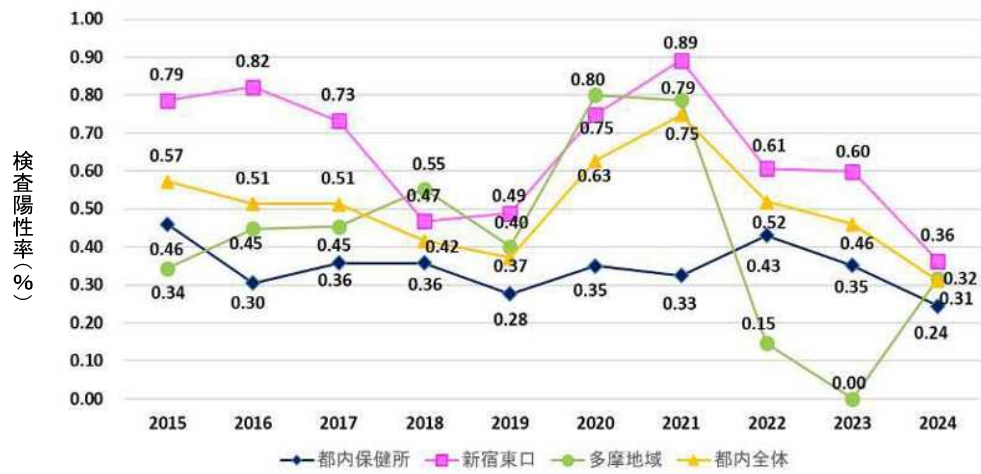
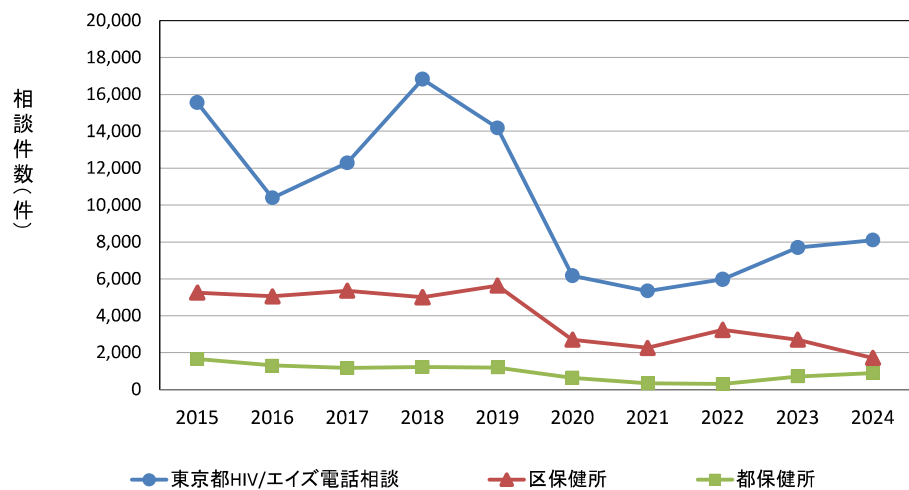
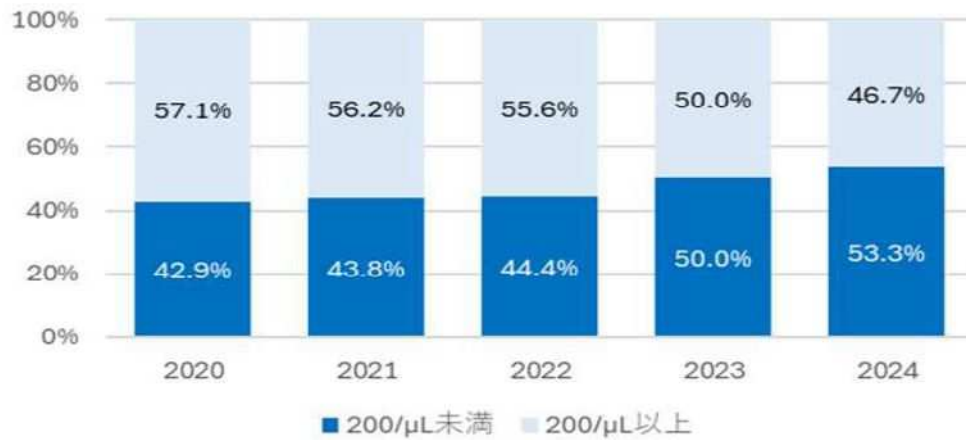


図-8 HIV/エイズの電話相談件数の年次推移（過去10年）



	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
東京都HIV/エイズ電話相談	15,555	10,389	12,293	16,836	14,181	6,167	5,342	5,974	7,695	8,099
区保健所	5,262	5,055	5,358	5,001	5,639	2,696	2,258	3,225	2,703	1,714
都保健所	1,653	1,297	1,167	1,219	1,197	644	343	314	712	890

図-9 東京都の新規HIV感染者と新規AIDS患者のCD4値の年次推移



	2020	2021	2022	2023	2024
200/ μ L以上	124	109	70	66	84
200/ μ L未満	93	85	56	66	96
合計	217	194	126	132	180
CD4値記入なし件数	166	163	162	170	110
CD4値記入割合	56.7%	54.3%	43.8%	43.7%	62.1%

図-10 東京都の新規HIV感染者のCD4値別報告数年次推移



	2020	2021	2022	2023	2024
200 μ L未満	33	37	26	32	45
200 μ L以上500 μ L未満	84	82	51	45	60
500 μ L以上	37	24	17	20	21
CD4値記入あり延件数	154	143	94	97	126
CD4値記入なし件数	150	151	141	150	102

図-11 東京都の新規HIV感染者のうち、CD4値200μL未満の年代別割合年次推移

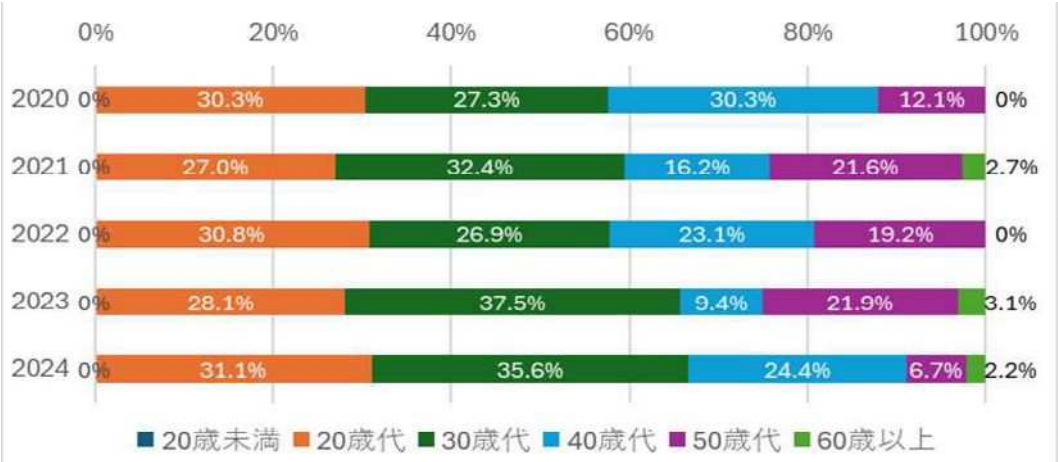
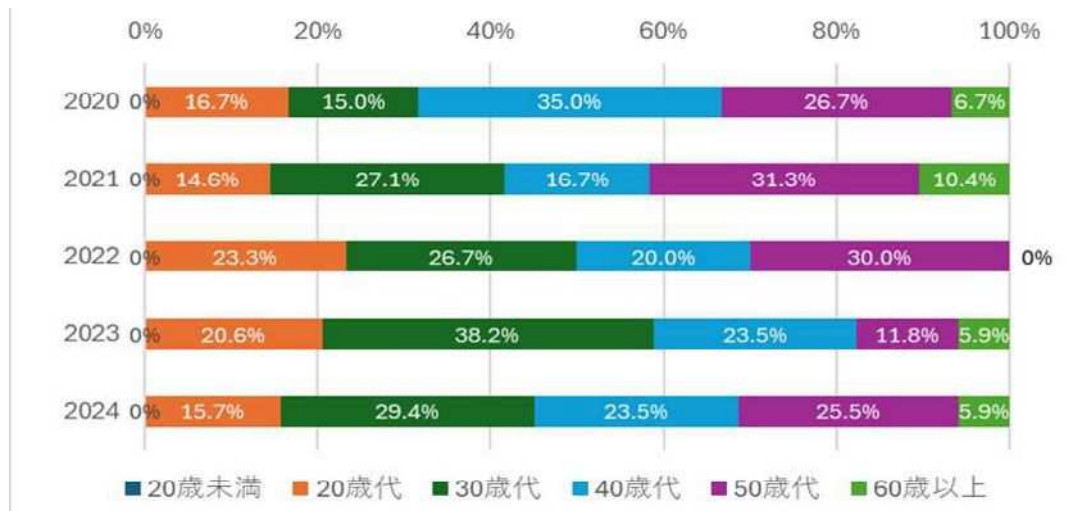


図-12 東京都の新規エイズ患者のCD4値別報告数年次推移



	2020	2021	2022	2023	2024
200 μ L未満	60	48	30	34	51
200 μ L以上500 μ L未満	3	3	2	1	3
500 μ L以上	0	0	0	0	0
CD4値記入あり延件数	63	51	32	35	54
CD4値記入なし件数	16	12	21	20	8

図-13 東京都の新規エイズ患者のうち、CD4値200 μ L未満の年代別割合年次推移



エイズ専門家会議疫学部会（書面開催）

	委員等	意見
1	岩本 委員長	1 予防啓発活動が減少し、「エイズは過去のもの」という印象が広がり検査行動に結びついていない可能性がある。 2 民族の均質性が高く、組織適合抗原（HLA）の多様性が少ない日本人の間でウイルス（HIV）が流行すると、進行が速くなる（CD4 が早く下がる）可能性がある。 （2016年論文）Kato, J., et al. Rapid HIV-1 Disease Progression in Individuals Infected with a Virus Adapted to Its Host Population. PLoS One, 11: e0150397
2	砂川委員	CD4値200未満では、30～40代の割合が増しているように見える（特に30代）。 一般的に（教科書的に）、①HIV感染の早期診断がなされていない、②検査受診率の低さと受検行動の課題、③検査機会の減少やアクセスの障壁、④高リスク行動者へのアプローチ不足、等が言われるかと思うが、年代から特に④でMSMや外国人居住者などの高リスク層への予防啓発・検査促進が十分か。
3	田口委員	HIV感染者は減っているが、それに比べてAIDS患者は減っていない。 つまり発症して見つかる患者の割合が高まっているのだから、CD4が低い患者の割合が高くなるのだと思う。 感染者全体は減ってもAIDS患者が減っていない要因を分析する必要がある。
4	貞升部長 （要綱第72による）	1 新規HIV感染者（20代、30代の感染で、CD4数の多い層）の早期診断が少ない（できていない）。 2 新規エイズ患者（40代以上）におけるCD4 200 μL未満の割合が増加している点は、今までに早期診断されていなかった層がエイズ患者として見つかったのか（コロナ禍の影響か）、新規HIV感染者層（30代の感染）の延長（今までの取りこぼしの結果）と考える。 3 2024年においては、CD4記入割合が増加した点は評価すべきであるが、さらに記入率向上に向けた努力をすべき。

東京都の梅毒発生動向(2024 速報)

出典: 東京都感染症情報センター

図-1 梅毒の患者報告数推移 (2015-2024)

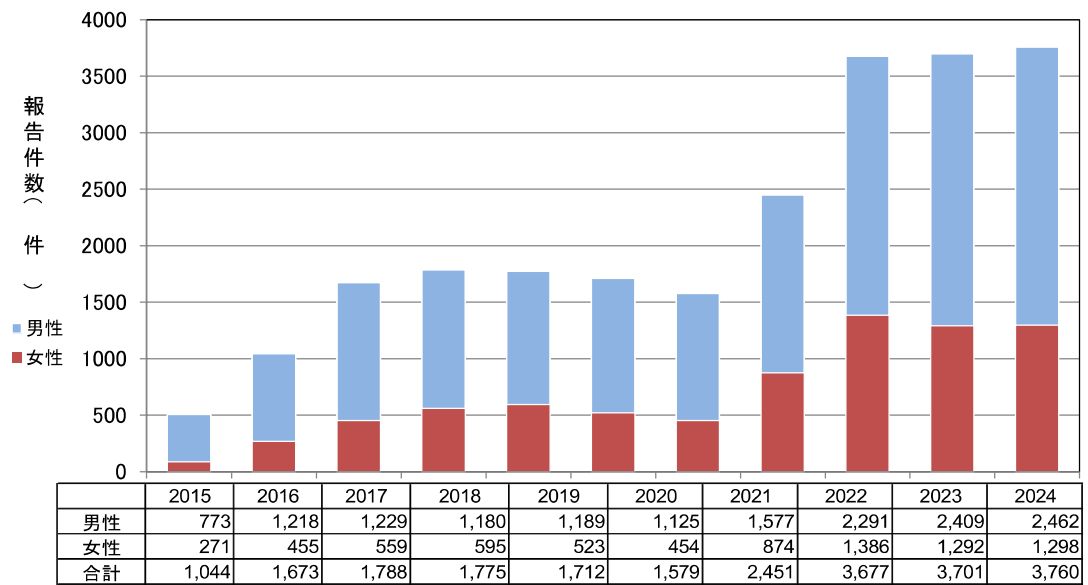


図-2 病型別患者報告数の推移 (2015-2024)

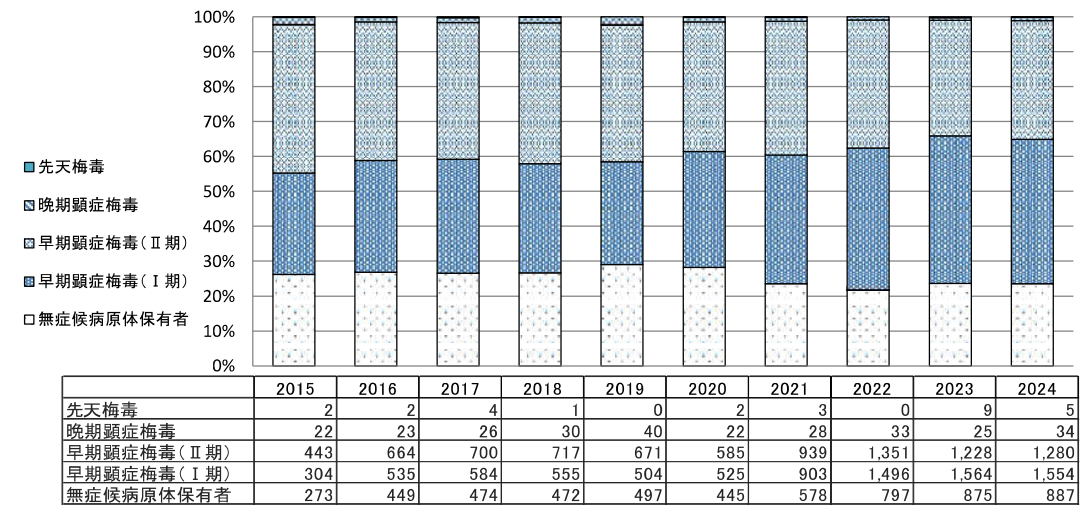
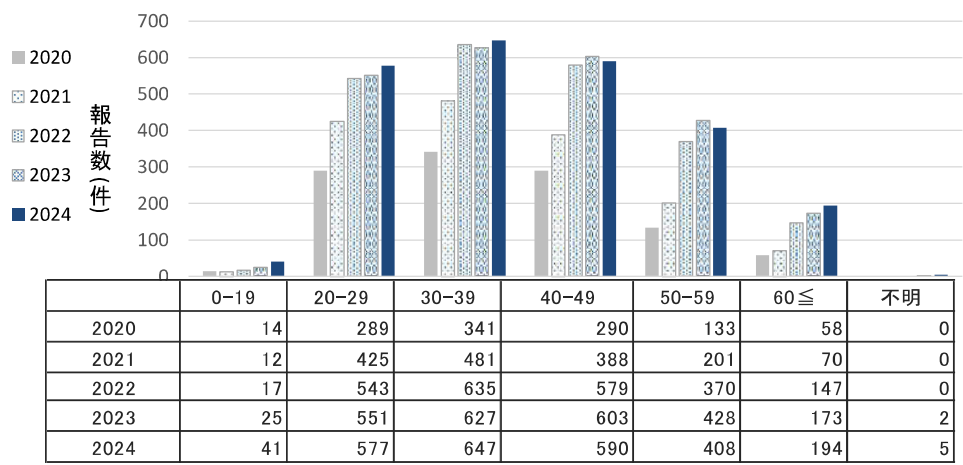


図-3 年齢階級別患者報告数の推移(2020-2024)

(男性)



(女性)

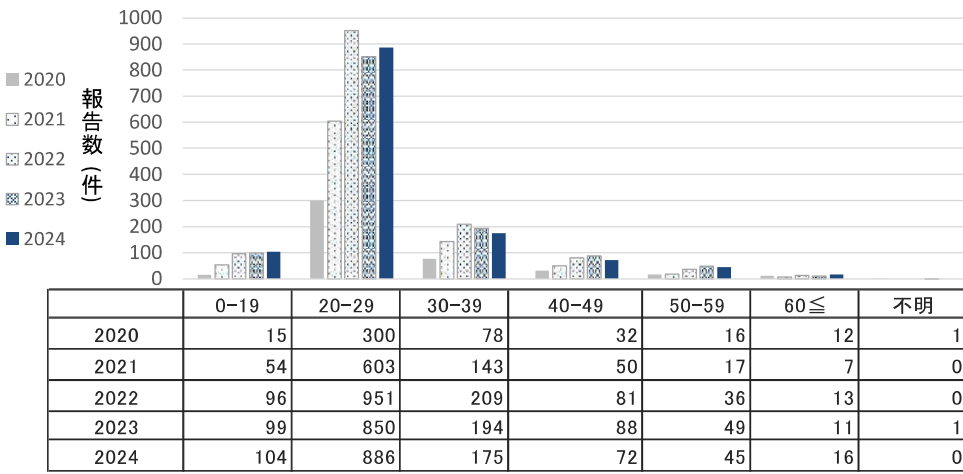


図-4 梅毒の推定感染経路別報告数の推移(2015-2024)

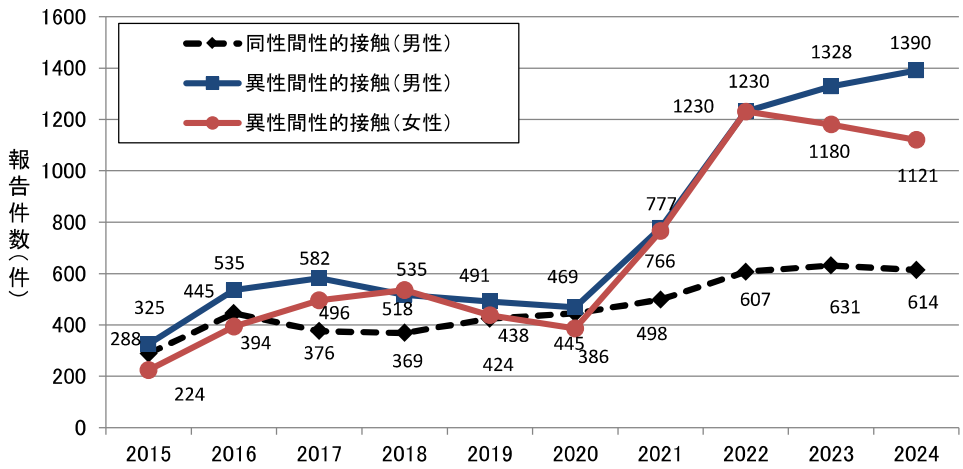
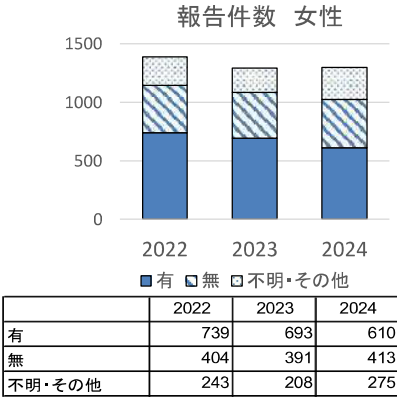


図-5 性風俗産業の従事歴（直近6か月以内）（2022-2024）

（報告件数）



（割合）

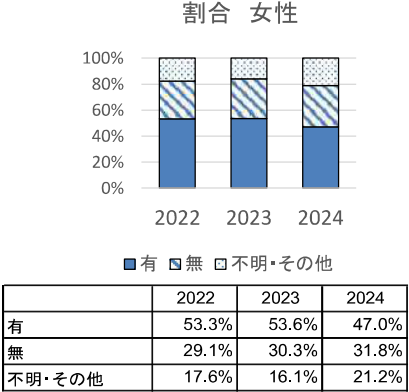
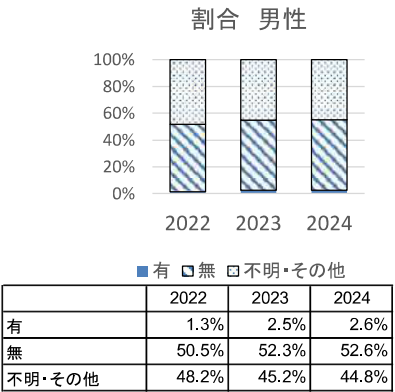
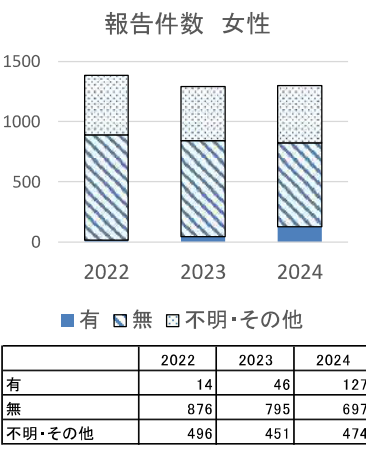


図-6 性風俗産業の利用歴（直近6か月以内）（2022-2024）

（報告件数）



（割合）

